

日本赤十字社 東京都支部

日本赤十字社 東京都支部 振興部 振興課
業 種：認可法人

日本赤十字社 東京都支部 振興部 振興課
竹松美沙さん(中央)、笠井亜沙美さん(右)、高橋郁弥さん(左)。
日本赤十字社 東京都支部(東京都新宿区)にて。

寄付金の受付・入金登録業務で 作業効率が大幅アップ！

払込取扱票のOCRで寄付情報を自動抽出、手入力が減り確認も効率的に

日本赤十字社 東京都支部では、個人の皆様や企業から寄せられた寄付を財源として、災害時の医療救護活動や復興支援、地域の防災普及、青少年赤十字活動といった幅広い分野で事業を展開しています。以前は寄付者様から届く払込取扱票の入力作業に多くの時間が割かれていましたが、PFUの業務用スキャナー「fi-7600」を導入することで、寄付情報の入力作業を効率化。作業時間短縮と職員の負担軽減を実現しました。日本赤十字社 東京都支部 振興部 振興課を訪ね、具体的な活用方法などをうかがいました。

課 題 一定期間に集中して届く大量の払込取扱票の項目を、システムに手作業で1件ずつ入力するのに手間と時間がかかっていた。

解決法 PFUのA3高速スキャナー「fi-7600」を導入し、払込取扱票のOCRを開始。コード番号や金額を自動抽出し、管理システムに一括登録。

効 果 払込取扱票の入力時間が繁忙期には1日3時間短縮され、寄付者様への御礼と領収証の発送がよりスムーズに。

手間のかかる手入力を改善するためスキャナーを導入

——東京都支部の活動内容と、振興課の業務について教えてください。

竹松さん 東京都支部では、災害救護を中心に様々な活動を行っており、その活動にかかる資金は多くの皆様からのご寄付で成り立っています。寄付金は災害現場などに医療チームを派遣して行う医療救護活動やこころのケア、毛布などの救援物資の配付に活用しています。また、その後の復興支援、防災にも力を入れています。

振興部は寄付金募集業務を担当する部署で、そのなかで振興課は、主に個人の皆様や法人様からのご寄付を受け付けています。

ご寄付を募る方法は様々ありますが、最も多いのは郵便局からの「払込取扱票(振込通知書)」を使用した振込になります。寄付金募集に関わる仕事をする中で、業務の効率化も積極的に取り組んでおり、fi-7600の導入も効率化の1つです。

——DM(ダイレクトメール)は年に何回送るのでしょうか？また、払込取扱票はどのような流れで東京都支部に届くのでしょうか？

高橋さん 個人の方には、年に4～5回、合計で17万通のDMをお送りさせていただいています。DMには寄付者様の「お名前」や「ご住所」、寄付者様固有の「依頼コード」が印字された払込取扱票を封入しています。それを受け取った寄付者様が、金額だけを手書きで記載し、郵便局で振込手続きをされると、払込取扱票の写しが郵便局から振興課に届きます。DMを発送後、2～3週間は多くの払込取扱票が届きます。

——届いた払込取扱票の管理システムへの登録作業はどのように行っているのでしょうか？また、その際にどのような課題があったのでしょうか？

高橋さん 払込取扱票に印字されている「依頼コード」と「振込金額」を管理システムに入力して登録作業を行います。導入前は手入力で行っていたため、とても時間がかかっていたことが課題でした。また、人員を増やすというのも簡単にはできないので、入力作業を自動化するようなITの力を借りて、業務効率を上げることが最良の選択と考え、スキャナーの導入を検討しました。



郵便局から届く払込取扱票の控えの束。
多い時で1日550件程度届きます。



振興課に配備された「fi-7600」は、A3機でありながら、デスクサイドにも置けるコンパクトサイズです。

「fi-7600」でスキャン・OCRし入力作業を効率化

——fiシリーズを知ったきっかけや採用いただいた理由をお聞かせください。

竹松さん データ入力業務にOCRを活用して効率化ができないかと考えていました。ただし、管理システムとうまく連動させることが重要なポイントだったので、管理システムを担当していただいているシステム会社に相談したところ、fiシリーズを紹介してもらいました。

高橋さん fiシリーズは管理システムとも親和性がとても良いと、システム会社のお墨付きがあるということも採用した理由のひとつです。デモ機貸し出しサービスを利用して検証した結果、OCRの認識精度は非常に高く、紙詰まりが発生しないということが決め手となり導入を決めました。

——スキャナー導入後の運用の流れをお聞かせください。

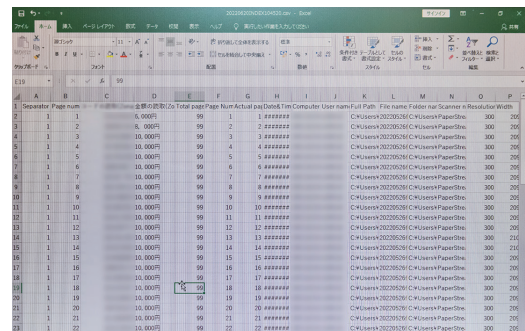
笠井さん 払込取扱票をfi-7600でまとめてスキャンします。



「fi-7600」は毎分100枚・200面の高速スキャンが可能です。また「手差し・単送モード」への切り替えで、封筒などの読み取りにも対応します。



標準添付ソフトウェアPaperStream CaptureのゾーンOCR機能を使って、「依頼コード」と「払込金額」をOCRします。



CSVファイルに出力後、Excelデータに読み込み、管理システムへ連携して寄付情報を登録します。

人間が作業するより圧倒的に速くて正確

——スキャナーを導入したことで、作業時間は短縮されたのでしょうか？

笠井さん 人間が作業するより圧倒的に速いです。入力件数は変わらないのに、繁忙期には1日3時間ほど入力時間が短縮されました。また、DM発送後、2〜3週間は多くの払込取扱票が届くので、それを10日とし、年に4回〜5回とした場合、年間135時間ほど削減される見込みです。

——時間削減によって働き方にもよい影響が出そうですね。

笠井さん 私は時短勤務をしており、限られた時間の中で業務をしなければいけないので3時間の削減はとっても大きいです。入力作業を課員で分担することも減りました。

——時間短縮の他に、どのような効果がありましたか？

笠井さん 正確性が向上しました。手入力をしていた時は、出力後のダブルチェックで入力ミスに気づき、その都度修正処理を行っていました。

が、スキャナーの導入により人為的なミスが減りました。

高橋さん ご寄付をいただいた方に受領した証の領収証と御礼を、1日でも早く届けることが誠意にもなります。より早くお届けすることができるようになったと思います。

——それは寄付者様も安心ですね。

竹松さん 寄付者様は領収証が届かないと不安に思われます。また、領収証は確定申告で使われるものなので重要です。より早くお届けできれば、問い合わせも少なくなり、対応工数も削減できます。



領収証とともに、寄付金の使途を伝える広報物も寄付者様に送っています。

一人でも多くの苦しんでいる人を救うため、継続的に寄付を募る

——今後も払込取扱票を使つての募集は続けていくのでしょうか？

高橋さん 東京都支部にご協力いただいている方々は、払込取扱票でご寄付いただく方の割合がとても多いのが特徴です。今後も払込取扱票での募集は続けていく考えです。また、法人様を担当する係でも同じ払込取扱票でのご寄付を受け付けておりますので、fi-7600の使用を検討しています。

——日本赤十字社 東京都支部様では世界や日本の現状を鑑みて、今後もより多くの寄付が必要になるとお考えでしょうか？

竹松さん 近年は自然災害にくわえて、新型コロナウイルス感染症、ウクライナ情勢などの影響で活動が多岐にわたっています。またメディアを通じて東京都支部の活動が皆様に届き、認知度が高まっていることもあり、ご寄付くださる方が増えています。コロナ禍では避難所の運営ルールも変更され、必要な備品も変わってきています。それらの準備のためにもご寄付を活用させていただいています。今後も様々な活動を続ける東京都支部にご支援とご協力をお願いしたいと思っています。

